

千葉大学病院にて肝胆道疾患の手術を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2023年10月6日

肝胆膵外科

肝胆膵外科では「消化器癌の進展、転移制御におけるBAP1の機能解析に関する研究」を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報等を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2005年1月～2017年12月の間に当院で転移性肝癌、ならびにその原発である大腸癌に対し手術を受けられた方

1. 研究課題名

「消化器癌の進展、転移制御におけるBAP1の機能解析」

2. 研究期間

2023年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

消化器癌の他臓器および遠く離れた箇所への転移は、病気が今後どのような経過をとるか（予後）を予測するための重要な要素のひとつです。肝臓は癌が転移しやすい臓器ですが、大腸癌肝転移は複数回の手術を含む積極的な手術による治療や分子標的治療薬という新しい薬を含む化学療法（抗がん剤治療）の進歩により患者さんの寿命がのびる、あるいは治癒することがわかっていますが、癌が発生した臓器（原発臓器）によっては必ずしも手術は有効でなく、また、診断時に手術はできないと判断せざるを得ない症例や、手術のあとに再発し、その後の治療が難しくなることもまれではありません。したがって、癌の増殖、浸潤、転移、再発のメカニズムをより詳しく調べ明らかにすることで、新たな治療法を開発することはこれからの重要な課題であると考えています。

本研究は、がん抑制遺伝子として知られるBAP1（BRCA1 associate

d protein 1) を対象とし、大腸癌の原発巣（大腸）、転移巣（肝、肺など）での増殖、進展、遠隔転移形成、再発に至る様々なステップにおける BAP1 の役割を明らかにし、BAP1 のはたらきをコントロールすることによる新しい治療法の開発にむすびつけることを目的としています。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

2005年1月から2017年12月までの間において、診療録に記載されている性別、年齢、身長、体重、病歴、血液検査値、診断、当科で行った術前、術後における画像診断情報、術前治療情報、手術情報、周術期管理情報、BAP1の発現データ、全生存期間、無再発生存期間について調べます。

5. 研究組織

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院 病院長 横手 幸太郎

研究責任者：肝胆膵外科 教授 大塚将之

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる保管庫で保管します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に試料・情報等を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はございません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等がございましたら、下記の窓口にご遠慮なく

お申し出ください。

相談窓口：〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科

医師 大塚将之、酒井望

043(222)7171 内線5286